

第46回日本疼痛学会

スイーツセミナー2

Maruishi
Pharmaceutical
Co., Ltd.
信頼と合意

日時▶ 2024年11月17日(日)

14:40~15:40

会場▶ 第2会場

TOC有明コンベンションホール 4F
〒135-0063 東京都江東区有明3丁目5-7

- 本セミナーは整理券制ではございません。
- 現地開催のみ。

最新ガイドラインからみる非がん性慢性疼痛 に対するオピオイド鎮痛薬の適正使用

The appropriate use of opioid analgesics for chronic non-cancer pain based on the latest guidelines

座長

長谷川麻衣子 先生

千葉大学大学院医学研究院
麻酔科学研究領域
教授

演者

中西美保 先生

滋賀医科大学 麻酔学講座
講師

共催 第46回日本疼痛学会 / 丸石製薬株式会社

最新ガイドラインからみる非がん性慢性疼痛 に対するオピオイド鎮痛薬の適正使用

The appropriate use of opioid analgesics for chronic non-cancer pain based on the latest guidelines

痛み診療の質の向上を目指した「痛みの10年」以後、オピオイド鎮痛薬の普及は、痛み診療への意識の向上に繋がった反面、米国のオピオイドクライシスをはじめとしたオピオイド鎮痛薬の不適切使用による依存・乱用などの社会的な問題を引き起こしている。また、オピオイド鎮痛薬の長期使用では、オピオイド誘発性痛覚過敏（Opioid-induced hyperalgesia : OIH）の発症や、免疫系や性腺機能に影響を及ぼすことも報告されている。

一方で、非がん性慢性疼痛の中には、重症の侵害受容性疼痛や難治性の神経障害性疼痛など、オピオイド鎮痛薬でなければ対応できない痛みがあるが、日本においては、こうした痛みに対して十分にオピオイド鎮痛薬が充足していない現状もある。

オピオイド鎮痛薬の使用の開始にあたっては、まず、オピオイド鎮痛薬の適応を適正に（過剰にも過少にもならないように）判断することが肝要である。また、適正使用にあたっては、オピオイド鎮痛薬の作用機序や鎮痛強度、薬物代謝などの特性を熟知した上での患者に最適な薬剤を選択すること、有用性が副作用を上回る最小限の投与量にとどめること、オピオイド治療のリスクベネフィットを長期的な視点で繰り返し評価することが重要である。

本講演では、2024年5月に刊行された「非がん性慢性疼痛に対するオピオイド鎮痛薬処方ガイドライン 改訂第3版」の変更点を中心に、オピオイド鎮痛薬処方に必要な基礎知識を整理するとともに、非がん性疼痛に対するオピオイド鎮痛薬の適正使用について考えたい。

【ご略歴】

1996年 3月 藤田医科大学 医学部 卒業
1996年 5月 大阪市立総合医療センター 臨床研修医
1998年 5月 大阪市立総合医療センター 麻酔科 臨床研究医
2004年 4月 大阪市立大学大学院医学研究科 麻酔科学講座 病院講師
2008年 4月 大阪大学大学院医学系研究科 漢方医学寄附講座 特任研究員 特任助教
2017年 10月 滋賀医科大学 麻酔学講座 病院講師
2023年 10月 滋賀医科大学 麻酔学講座 講師
現在に至る

中西 美保 先生
滋賀医科大学 麻酔学講座 講師